



越の国に青年技術士が集う

—— 第 34 回技術士全国大会「青年技術士の集い」参加報告 ——

(社)日本技術士会北海道支部

青年技術士交流委員会 委員長

技術士（建設／総合技術監理部門） 丹 治 和 博

1. はじめに

第 34 回技術士全国大会が福井市で開催され、これに併せて「青年技術士の集い」が 2007 年(平成 19 年) 10 月 16 日に開催されました。第 31 回札幌大会から始まった青年技術士の分科会が、4 回目を迎えて分科会から切り離れ、名称も新たに「青年技術士の集い」として本大会の前日に開かれたものです。

2. 青年技術士の集い

(1) 青年技術士の未来と題して

開催にあたり、主催の北陸青年技術士委員会の堀田委員長、(社)日本技術士会高橋会長、青年技術士交流実行委員の時合委員長の挨拶がありました。時合委員長からは「国家の品格」に例えて「品格ある青年技術士」として参加者に提起されました。

(2) 基調講演

北陸支部の鳥居直也氏（建設／応用理学／総合技術監理部門）による基調講演「おもしろそー」は、子供達の感性や興味を少しくすぐるだけで、子供た

ち自らが進んで創作したり体験しようとしたりする経験を例に挙げて、私たち技術士にも「おもしろそー」と思う心が重要ではないか、という講演です。こういった感覚で改めて職場を見つめなおすと、自分の周りの世界が全く違って見えてくるとして講演は締めくくられ、私たち青年技術士にとって初心に帰る原点を再認識させられる内容でした。



写真－2 鳥居直也氏の講演

参加者にはそれぞれストーリーが配られ、しばし青年技術士たちは童心に返り、会場は怪しげな音が鳴り始めました。

(3) 発表講演（2 題）

建設コンサルを退職し人材派遣会社に勤務する五座由洋氏の講演「技術者のライフライン」は、土木技術者を企業に斡旋する立場からの視点であり、技術者のワークライフバランスの実現に向けては法整備だけでなく、営業センスや金融センスが必要となるというものでした。講演内容には人材派遣会社ならではの技術者の転職ノウハウ話もあり、興味深い参加者が多かったのではないのでしょうか。

野々部顕治氏からは「水の浄化を題材とした環境教育」として小学校への出前講座の経験にまつわる講演がありました。子供たちへの出題や経験のさせ方によって興味の湧き上がり方が異なるという話



写真－1 時合委員長の挨拶

高橋会長、北陸支部の堀田委員長に続き、本部青年委員の時合委員長の挨拶で「青年の集い」が幕開けとなりました。

は、鳥居直也氏の基調講演にも共通するものです。



写真－3 講演会場の様子

本大会の前日にも関わらず、会場は全国の青年技術士(だけとは限りませんが)で、ほぼ埋まることとなりました。

(4) 配布冊子「青年技術士の未来」

「青年技術士の集い」で配布された冊子は当日の講演要旨だけではなく、本部・支部の青年委員会の紹介や全国で活躍する青年技術士の活動紹介からなっています。北海道からも数名の方から原稿を書いていただきました。ありがとうございます。

それぞれの青年技術士の想いが詰まった冊子はそれだけでも読む価値があります。PDF等インターネット上で配付されようになると、参加できなかった方々も読むことができるでしょう。

3. 青年達の夜は長く……

同日開かれたウェルカムパーティーに引き続いて、市内某所で「青年交流会」が行われました。北陸支部青年委員会のバンド演奏に始まった交流会は時間が経っても熱気が冷めやらず、参加者は福井市が誇る繁華街深夜の片町通りへと消えていくのでした。



写真－4 青年交流会にて

身動きできないほどの参加者が溢れ、青年交流会の会場は自己紹介もままならないほどの熱気ムンムンでした。

4. おわりに

4年前の札幌大会から始まった全国的な青年技術士の集まりは“交流”を第一歩に始めましたが、今回の福井大会では「青年技術士の会」が十分に成熟してきた感がありました。今後はより若い技術士が大勢増えてくるでしょうから、“交流”から更に一歩踏み込んだ「青年技術士ならではの会」への発展が求められつつあります。次回は更に遠く島根県松江市での開催とのことです。かなり遠いですね。



写真－5 冊子「組織の危機管理を考える」の販売

急遽、北海道から持ち込んで販売した危機管理研究会の冊子は、お手ごろ価格でもあり、おおむね好評のようでした。